

弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要 (第4回会議)			
日時	平成28年10月12日(水) 18時00分～20時00分		
場所	弘前市役所新庁舎3階防災会議室	傍聴者	2人
出席者 (23人)	委員 (12人)	佐藤会長、生島会長職務代理者、松本委員、小山委員、鹿内委員、鴻野委員、安田委員、藤田委員、斎藤委員、小野委員、久保田委員、村上委員	
	執行 機関 (11人)	市民協働 政策課	清藤課長、堀川課長補佐、櫻庭主幹、大瀬主幹、對馬係長、長谷川主査、齋籐主査、阿保主事、神主事
		広聴広報課	工藤課長、原子広聴広報担当主幹
会議概要			
1 開会			
2 議事			
<p>条例に基づく行政運営の状況等についての審議  ～「情報共有に関する取り組み」における  市民と市との対話等の直接的なコミュニケーションによる情報共有の仕組み～</p>			
【取り組みの現状・課題等の説明】			
広聴広報課担当者			
<p>■出前講座事業は、市で取り組む施策や事業を市民になるべく知ってもらうことを目的に、職員が直接出向いて5人以上のグループに説明をするというものになっている。講座受講後に、聞いた内容、感想、要望を含めて報告書というアンケートをいただいている。25年度から27年度までの実績で、27年度は実施回数が前年度までと比べて大きく減っているが、それは、26年度まで出前講座として実施していた健康体操講座が非常に人気が高かったため、それを出前講座とは別にして事業として立ち上げて実施することとしたことが回数が減った要因であると考えられる。</p> <p>■市政懇談会は、市内を26地区に分けて、年に8地区から9地区回るようにして、3年間で全26地区を一回りする流れで、基本的には町会連合会が主催で、それに市が協力する形で行っている。開催地区内の町会役員や住民など会場に集まった方と、市側の市長をはじめ担当部署の部長等が向かい合っ</p>			

てお話しするものとなっている。

- 市長車座ミーティングは平成 22 年から実施しており、その後 26 年に学生との放課後ミーティングを実施するようになってきている。車座ミーティングも申込みは市民グループということで、人数を集めてという仕組みをとっている。放課後ミーティングに関しては、年 1 回ずつしか実施できていないが、26 年は大学生を対象として、27 年は高校生を対象として実施している。市長と直接意見交換ができる機会として実施している。
- アイデアポストは手紙方式でアイデアを出していただくもので、顔が見えないものではあるが、気軽に出しやすいという面が良いのかと考えている。投函箱を市内 11 か所に設置。紙に書いて投函箱に投稿していただく方式の他、市ホームページからのメール、又はファクスでも対応している。いただいたアイデアに対しては回答するとともに、ホームページに 1 年度分をまとめた回答集を掲載している。
- 取り組みの成果としては、各事業すべてにおいてですが、市民の皆さんからの声を聞いた上でそれを事業に反映させる、あるいは新たなものを考える上で参考になっている。例えば投票所が新しく設置された場合や、道路改良の費用が予算化されるなど。
- 課題としては、車座ミーティングは個人ではなく何人かのグループでという形で募集していて、広報等でも周知は図っているものの、年々参加者が減ってきている現状がある。それから、市政懇談会については、道路関係の事案が多いということがある。市側の感覚になるが、道路の案件については、道路関係の部署に直接普段から話しをし、上手くやり取りできるような仕組みが作れていれば、わざわざ市政懇談会で言う必要が無くなるし、そのほうが早く対応できるのではないかとということがある。2 時間という限られた時間なので、道路以外のことでも話ができればと考えている。

#### 市民協働政策課（エリア担当制度担当者）

- 全国的には約半数の自治体が施策として取り入れている。市民ニーズを把握しながら地域のパイプ役となって、地域づくりについての助言や協力を行う職員を各地区に配置しているものになっている。昨年度は、年間 400 件の案件を各課につないでいる等、日々地道な活動を行っている。次に、体制についてですけども、任期は 2 年で、職員を市内全 26 地区ごとに、すべて所属との兼務体制で数名ずつ、配置している。

■次に課題について、まず市民主体による地域活動の活性化につなげるため、地域に寄り添った効果的な市政情報の提供のあり方が課題となっている。また、兼務体制であるため本務との調整の問題や町会からの要望や相談にスムーズに対応し得るような職員の資質など、関係課との連携の面も課題となっている。

会長 □ご説明は一括していただいたが、議論の進め方としては、全部で5件あるため、一つずつ取り上げて議論を進めて行きたい。

□前回の広報媒体については目にしたり触れることもあって、我々もこういうものかと知っていることが多かったかと思うが、今回のものについては、中々直接それに参加するという機会も少ないものだと思うので、事実確認に関するご質問でも一向に構わないので、ご意見ご質問などはないか。

#### 【主な発言内容】

##### 《①出前講座》

委員 ○27年度実績でいうと、一度もお呼びがかからなかったものもあるようにみえる。(市担当：全メニューのうち約半分は一度も実施されなかった)5人以上のグループで利用可能であるため、その講座に対するニーズを持った人が自分たちの周りに5人以上いないと受けられない。求める人が個人で市内に点在している可能性だってあると思うので、広報などで5名以上集まれば開催しますみたいに呼びかけたり、そういう方法を一つ考えていただければなどと思う。

会長 □前回の情報媒体のほうは、市の方が市民に知ってもらいたいものを発信するものである。一方この出前講座は、逆に市民の方がこれを知りたいというような流れになるけれども、市から伝えたい事にも使えるということでもあり、でもそういう方向は取っていなかったと。紙とは違ったもっと直接訴えるようなものになるかもわからない。

委員 ○市民からの声が聞くということが一つということなんだけども、我々市民がそう考えていない。私達も何回も呼んでいるが、講座だから勉強したい。市民からの声を聞くという感じではなく、こちらが勉強したいという気持ちを常に思っている。そして、物を知っていくにつれて、それ以上のところを聞

きたいというのが市民であるが、来る講師は職員である。もっと高度なものを望んでいるので、それに合った講師をお願いしたい。しかし、職員以外に講師をお願いするとなるとお金がかかる。

委員 ○市単体で講座をするのではなくて、いろんな町会にいろんなノウハウを持っている方が結構いると思う。その方からこの中の講座を担当してもらえる人を選任して、個々に各地域に実施してもらったほうが効果があると思う。そうすると、職員がわざわざ行かなくても、もっと話術の上手い人もいる。ボランティアになると思うけども、公民館のプログラムに組んでもらう方が、職員が直接やるよりも波及効果が高いと思う。

会長 □市民側が勉強したいものっていう意味で言うと、このメニューにあるテーマとは別の話を聞きたいなんていうことを、マッチングさせて作るということもしてみてもいいと思う。

委員 ○毎回、利用団体から報告書を提出していただいているということだが、評判の程は？

→（市の回答）概ね、勉強になったと書いてくださっている。職員の話があまり事務的で面白くないという意見もある。さらにもう少し突っ込んだ話が聞きたかったといった意見もある。

委員 ○仕組み自体は、こういうメニューをあらかじめ決めておいて、その中から選んでくださいという形でやるしかないと思うが、委員がおっしゃられたように、例えばこういうテーマで聞きたいんだという市民の側から意見を聞いて、そのテーマに沿って講座をやるような枠を少し作ってもいい。

委員 ○市民から専門員を募集して、テーマごとに担当部署で応募された方と意見交換し合いながら調整をとって、市側からこういった形で出前講座を実施していただきたいというふうにもっていけばどうか。

委員 ○潜在的なニーズがあっても、どういうふうにそれを消化させていったらいいかわからないので、それをコーディネートしてくれるのがエリア担当なんだ

と思う。この地域がもっとこうなっていったらいいんじゃないかっていうことでつないでくれば、エリア担当も機能するし、こちらも機能する。

委員 ○エリア担当も講座メニューを持ってきてくれて、連合町会なり町会で説明している。さっきの民間から講師をとという意見は、外部の方が講師で行っても、一つの講座になるのではないかと思う。民間から登録してもらって、講座をやってもらうという手も無いわけじゃない。講師料が高ければ無理だけでも、ボランティア程度でやってくれば。

委員 ○地域ではやっているところがある。公民館では地域の名人を登録していたり、学校でもそういう名人を登録していたりする。

委員 ○学校でも募集をかけて昔話を語れる人とか、各学校で校外学習をしている。そういう学校関係者とエリア担当と情報交換できるような形を取って、地域の人材を把握し、各地域の情報を得るようにして、そこから子どもたちにも興味がわくような出前講座等に広げていけたらいいと思う。

委員 ○私も出前講座を使ったことあるが、事前に担当者とお話する。打合せをすることは必要である。

会長 □そういうことは、市の担当者の方が、積極的に何を聞きたいのかとか、やればいいわけですよ。

委員 ○内容の方も問う必要があるし、担当課によってやり方が違うと思われるので、その辺りの共通意識というか、市民の方々に講座をするときにこう教えたほうが望ましいとか、こういうプロセスでとか、こういう学習を意識してとか、そういうような共通意識をもっておく必要がある。

会長 □最低でも、どういった話を聞きたいのかとか、そういう打ち合わせをするようにとか、共通のものが必要である。

## 《②市政懇談会》

会長 □これは町会が主体なのか。

→（市の回答）町会連合会が主体だが、誰でも参加できる。

委員 ○先ほどの説明の中で、市政懇談会のあり方について触れていたが、問題として上がるのは、いわゆる建設関係だけが多い。これでいいのかという話を市町会連合会の役員で話している。要望でなく、これからどうするのかをやっていかなければならないが、町会長がそこまで思っていない。役員としては、これでは駄目だと思っており、これでいいのかというのは当然の話である。ただ、この市政懇談会を私は無くしたくない。

会長 □問題点は、町会連でも市の方でもこれでいいのかなと思っている。当事者で問題が非常にはっきりしているのに、なかなか変えられない。そういうところで行くと、当事者以外の方からいろいろご意見いただきたい。

委員 ○市政懇談会で挙がっている問題のほとんどは、エリア担当で間に合う程度。本当は町会長がエリア担当にここの道路ちょっとあれだから直してくれよと担当課に話してもらっただけで良いのだが、市政懇談会まで持って行っている。それでいいのかと思う。エリア担当はパイプ役をちゃんと果たしている。かなりの処理をやってくれていると思う。うちの地区もできないは別けどもちゃんと回答が来ている。

委員 ○市政懇談会を町会単位で行っていることは、一番効果的なやり方であると思う。ただ、参加される方を見ると、女性が極端に少ない。あとは開催時間で、ある程度の年齢層しか参加できない。いろんな要望が出て、市長、副市長など上の方なので、発言しても受け入れてもらえるような雰囲気がいいのかなというのもある。私は市政懇談会はいいと思う。ただ、私がそこに出ようとした時、非常に敷居が高くていけない気がする。そこで、市政懇談会とは別に、女性や若い世代などを対象にした対話集会などを開くのも良いのではないか。例えば、小さい子どもを持ったお母さんや介護や保育、農業の現場で働く若い人たちと、市の職員で同じ立場や世代の人、担当課などは関係なく同じくらいの人同士が参加して複数の人たちが話す場を設けるなど。職員の負担やテーマ設定などの課題はあると思うが。

会長 □学生との対話の場はあるけれども、もう少し別の年代として、40代を対象

としたものとか、町内会の人とはまた別のもあればと思う。

□この市政懇談会は、市と町会との話し合いとして必要だが、中身が固定化している。もっと教育問題を話し合ってもいいだろうし、健康問題を話してもいいだろうが、建設関係、道路しかでてこない。もっと幅広い話ができるような場にするにはどうしたらいいとか。

委員 ○市政懇談会は敷居が高いということはある。仕組みを変えていかないと若い人が入ってこないんじゃないかなと思うし、市政懇談会に対してなかなか若い人の興味が無い。時間帯も去年、夜やったけども人が集まらない。夜だから人が集まるかっていうものでもない、やっぱりPR的なもの、題名が「懇談会」でいいのかその辺も疑問である。また、考え方も、我々は要望だ要望だ…という気持ちでずっと何年もきたので、出る人はほとんど町会の役員とか町会長。変えてはいるけども、本質の方には向いていってはいないという現状がある。

委員 ○方法的なところで言うと、向き合うかたちだと、いわゆる陳情型になる。例えば、ワークショップ形式でやるとか、方法的なところはいくらでも工夫のしようがあると思う。参加者の固定化に関しても、確かに課題だと思う。あと、位置づけ的なところで言うと、ただ要望出してくださいでは、結局陳情型になってしまうので、何とかして協働的な形に変えないといけない。そのためには、やっぱり題材と言うか目標が必要である。少し壮大な話になるかもしれないが、結局地域づくりの中に、まちづくりの中にどう組み込んでいくのかと言う話になってくる。例えば地区ごとにまちづくりの計画をたてるとか。みんなで考えていこうっていうのであれば陳情型の意見ではなく、地域にどういう問題があるのかとか、どう解決したらいいのかとか、みんなで何に向かって頑張ったらいいのかということが、少し意見が出やすくなると思う。だから、話し合う題材というか、位置づけももしかしたら変えたほうがいいのかなと思う。

会長 □陳情型だけではダメで、問題を発見したり、先の見通しがでてくるような何か。

委員 ○この市政懇談会の中で多く出てくるのが道路改善だの除雪の改善というの

は、この場まで待っていることがおかしいのであって、市政懇談会をやる前に自分たちで何らかの方法で、直接担当課でもいいし、例えばまちづくり1%に応募してくるところもあるし、直接その前に解決していかなければいけないことを、この懇談会の場まで我慢していてせつかく市長来るんだから来た時に話すという風潮があるんじゃないかなと。もしそれがあるとすればそれはおかしい話。それが全部解決されていけば、その場で別な話ができるはず。道路の問題とか子どもが関わることであれば、一日でも早くやらなければならないことなのに、極端な話、来年ウチの地区に懇談会来るからその時に話そうとしているのであれば、それはとんでもない話で、そこがお互いに認識を変えていく必要がある。

委員 ○今の細かい問題は各町会長の考えをレベルアップしないと、懇談会にこういう問題が出てくる。

委員 ○懇談会のこういう場合は、地域で問題点があつて、地域で私達は、こういうことで頑張ってるんだけど、じゃあ市では私達が頑張っている部分の他の部分をどういうふうにバックアップしてくれるかとか、そういうような内容になる会議であればいい。やっぱり地域住民も自分達で問題があつた時にはどうしたらいいかって努力しているということを話す。だけど、ここができないとか、どうすればもっとできるか、お願いだけじゃなくて、そういう話になっていくような場であればいいと思う。

委員 ○いまあつたようにテーマを決めたり、ある程度出る人たちをピックアップしておくとか、その地域の学校の方とか。

委員 ○地域で頑張っていることを市の偉い人に伝える場であってもいい。

委員 ○市政懇談会でずっときているから、なかなかこれを変えらるとなると、よほどのパワーがないとできないので、徐々にまちづくりっていうものを先に出して、その中の市政懇談会とミックスしながらやっていけば、徐々に変わっていくと思う。今は市政懇談会ですから来年からやめますとはいかない。

会長 □まちづくりと少しつながっていくような。



委員 ○ こういう時こそ、対面でやるんじゃないなくて、ワークショップとか、ファシリテートをきちっとして、ある程度方向づけをするような、何でもお願いする雰囲気にはしない。初めからワークショップとなると、来なくなるから、来てみたらワークショップだったみたいな。

委員 ○ 都市政策課で行っている「まち育てミーティング」だと、ワークショップ形式で、まち育てをテーマに皆さんでいろいろ話を聞きながらやっている。そこは、陳情ではなくて、自分たちの地区では、どういうまちづくりをしていくか、ということで住民が皆さんでこれから取り組んでいきたいリストを作ることになっている。その取り組む主体はなるべく行政ではなく自分たちで、企業や中学生やお子さんも参加している。ただ地区によっては町会長しか参加しなかったりとか、なかなか参加者が少ないというのが現状ではある。部署を横断的にやっていけば、しっかり円になって、ファシリテーター養成講座の受講者がファシリテーターとして参加してくれている。そういうものとうまく連携できないかなと思う。

委員 ○ 市政懇談会が、まちづくりの話に行ってしまったが、市政懇談会での要望的なものは、エリア担当とか直接町会長が行けば解決になるものがほとんどである。それ以外のところと、まちづくりとのミックスのところもあるが、市政懇談会には部長が全部出ている。課長も担当も来ている。問題があるとすぐ対応する。このまちをどうしていくかと都市政策課で大学生とかを集めてやっているが、あれは将来どうしていくか、地区をどのようなまちにしていっていいか、この地域の特徴は何かなどをやっているの、市政懇談会とは別と私は考えている。

会長 □ いずれにしても市政懇談会は重要な場所を占めているが、いろいろと考えると、位置付けとかあり方とか性格とか改めて考える必要がありそうで、ちょうど考える時期なのかもしれない。いままでやって来たけれども、それだけでは弘前市の中で市政懇談会が重要な位置を占めていくことができにくくなっていると。いずれにしても問題点が浮き彫りになっているし、市政懇談会のありようを根本から立ち止まって考えてみる必要が指摘されたんではないか。

委員 ○ここでは関係ないが、地区は、エリアが学校とかと重なっていなかったりする。

委員 ○村が合併して今の一つの地区になっている。また、弘前市の旧市内にもいろいろ地区があり、昔からいる人はわかる。昔の村だから学校がある、今はその学校が統合しているから越境があるとかとか様々あるので、どこを区切るかはなかなか大変。

委員 ○いま小学校は統合したりしているが、そうなった時に、現場の話を聞くとずれが生じたり、そういうことも、今後人口減少を考えれば、大変だと思うけども、このエリアを整理していくこともあってもいい。

### 《③市長車座ミーティング、学生と市長の放課後ミーティング》

委員 ○呼んでみたいけど、敷居が高く、市長さんをわざわざ呼んで、5,6人でやるというのはなかなか出来ないというのがある感じがする。

会長 □市政懇談会以外で色んな人の意見を聴くというところに視点をちょっと移して、そういう機会をもっと考えたほうがいいのではないか。それを車座ミーティングの実績の変化が代弁している感じだけれども、もっと多様な人の意見を吸い取るような、参加できるようなものがないかなという気がした。

委員 ○学生と市長放課後ミーティングは、学生が社会的な活動を通じて力を付けていくっていう教育機会になるんだったらいいなと思う。先ほどから市長と話すということが敷居が高いというのがあったが、いざ話してみると実際はフランクに話してくださる。ただやっぱりこっち側はすごく緊張しているし、ギャラリーが本人達より多い。それでようやく打ち解けてくるころに60分が終わってしまった。

会長 □いろいろこれからもっと工夫を凝らして、いろんな人と市と直接的なコミュニケーションができるような機会を、質的にも量的にも改善していく必要があるんじゃないかというふうに感じる。

委員 ○実施回数が減ることがダメなのかなって逆に思う。始った当初は役所に行っ

ても何も聞いてくれないから、直接市長に話したいという人があったと思うけど、市と直接やり取りして応えてくれるいろんな場面が増えてきているので、直接市長に言わなくても担当に言えるからあまりやってないというふうにも捉えられる。けども、こういう場は必要だから場面は残しておいた方がいい。言える立場が増えてきているから、直接しなくてもいいという、良い数字でもあるんじゃないか。

委員 ○広報ひろさきとかに写真は出ているが、その場ではこういう意見が出て、市長からはこういう話が出ましたっていうことも少し載せて、やってるんだいうことを、もう少しアピールすればいい。とてもいいミーティングだと思う。

委員 ○せつかく、出前講座があるので、市長自らが出前講座をやれば、絶大なる好評を得られると思う。総合学習で各学校に行って、年1回60分とか90分とか授業担当されてはいかがか。

#### 《④アイデアポスト》

※特になし。

#### 《⑤エリア担当制度》

委員 ○この条例のことも含めて、市長車座ミーティングや市政懇談会でも感じていることは、市側と住民ということで、市側で器を用意しているの、名乗りを上げてくださいます、数をこなさないと市側が評価されないということもあり、主体がはっきりしない。そう考えたときに、エリア担当の方がキーパーソンになるんじゃないかと思っている。かなり機能しているところもあるようだが、そのときに、その架け橋という形で果たしていいのかなという疑問もある。架け橋というだけでなく、市役所の人も市民の一員であり、地区に帰れば地域の担い手でもあるので、架け橋というよりは、公私混同型公務員みたいな感じで、むしろ地区の担い手になってもらう若手職員というか住民として、ここの地区に住んでいるから、自分事として繋いでいくというスタンスを取ってもらった方が、持続性のある地域づくりにつながっていくと思う。そういう関わり方をすれば、例えば市政懇談会であったとしても、この地域で本当に課題になることはなんなのかっていうことを、その人達がつぶさに見ていてくれれば、そういうコーディネートをしてくれたりも

出来るし、出前講座に関しても、この地域にこういうことが必要なんじゃないかっていうのを積極的に捉えていって、講座を引っ張ってくるっていうようなイメージでエリア担当がやってくれれば良いんじゃないかと思う。

委員 ○それにはちょっと危険性があるんじゃないか。昔はよくお巡りさんだとか地域の担い手として存在してたけども、そうなるとお盆正月にお菓子とかお餅とか持っていく人がでてくる。断ることでそこに不和が生まれたり感情的なものが発生するんで、そのいまの発想は素晴らしいけれども、その辺のところ、賄賂じゃないけれども。

委員 ○エリア担当は当初は町会の御用聞きではなく、職員の資質を高めるということが第1の目的だったので、我々もエリア担当の人を育てていかなければならない。エリア担当の人も町会に入らなくてはいけないが、町会に入っていないエリア担当もいる。また、地域にいるんだから地域のことも色々勉強することが、やっぱりエリア担当の任務だと思う。

委員 ○任期が2年なのは良いことで、さっきの賄賂じゃないが、長くいれば癒着とかがあるのかもしれない。2年ずつやって、たくさんの人が役割を担い、2年やったから離れてしまうのではなく、先輩としてどんどん増えていくためにも2年がいいと思う。

#### 《その他》

委員 ○どこの場面で話していいか分からなかったんで、でも話しておきたいんですけど。例えば今日みたいな各委員会とか、実行委員会とかあるが、結果ありきで10分くらいで終わるものもある。例えば、もう中身が決まっていて、提案してももう間に合わないとなって、何のために開いているんだろうというような。せっかく市民の方に入ってもらっていると思うので、そういう形式だけのものではなく、じっくり議論して中身を良くしていける場にした。対話というテーマで今日議論なので、その辺の委員会とか実行委員会とかのあり方についても、もう少し中身を確認して欲しいと思う。

委員 ○私も健康の方の出ている。やっぱり、土台はあって、そこに意見は聞いているので、全部が全部そうではないかとは思う。

委員 ○今日のこういう審議会は、すごくいいと思う。

委員 ○いろんな委員会や審議会を条例や総合計画の中に位置付けることが必要だと思う。

○市民の役割、行政の役割、企業の役割があって、それぞれの立場からそれぞれの施策に対してアプローチができるような総合計画になれば、もっと市民協働とか、参画というのが実体化する自治体運営に繋がっていくんじゃないかと思った。

○市民側が考えるには時間がかかる。でも時間かけるからこそ、市民のアイデアをすくいあげられると思うが、「予算が何時何時まで」とか「議会が何時何時まで」とか、ゴールありきでやられてしまっていて時間が無い。一方でそれはスピード感という意味ではいいのかも分からないが、協働とか参画を考えるのであれば、時間をかけることも必要だと思う。

3 事務連絡

4 閉会